

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101471		
法人名	社会福祉法人 のぞみ会		
事業所名	グループホーム のぞみの杜		
所在地	長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷1578		
自己評価作成日	平成27年11月12日	評価結果市町村受理日	平成28年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成27年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(誠実)スタッフは入居者お一人おひとりがかけがえのない存在であることを心に刻み、その方らしく暮らし続けられるよう小さな気づきを大切に、個別ケアの標準化を図る為のシステム作りを行い日々のケアに努めています。
(信頼)スタッフは心と心のふれあいを大切に、ご家族のお気持ちをしっかり受け止め相談・サポートをおこなっています。全職員が基本方針の一つである「安心の拠り所」となれるよう努めています。
(向上)研究発表会にて事例発表を行うなど、専門職として勉強会や研修会に積極的に参加・発表することで、自らのスキルアップと日頃のモチベーション強化とライフワークバランスの柔軟性を図り、入居者(ご家族)、働く職員、地域とともに「笑顔」と「ありがとう」が集まるグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は住宅街の中に位置し、公共施設等社会資源に恵まれた環境の中にある。設立時から「地域への恩返し」という目的のもと、地域に密着した体制を作ってきた事が現在、地域に「なくてはならない場所」という理解を得ており、積極的な地域交流が期待できる事業所になった要因の1つであると言える。理念や基本方針を全職員が共有し、前向きに日々の支援を行っている事が伺え、職員は利用者の出来る事出来ない事を見極め支援すべきところと見守るべきところを理解している。利用者はゆったりとした雰囲気の中でおしゃべりしたり、レクリエーションに参加したりと本人本位の生活を過ごしており、時折笑い声が聞こえてくる。利用者からの意向等の抽出に努め、その人らしい暮らしや尊厳を大切に計画に落とし込み、支援している。人事考課や年2回の職員面談は、システム導入に留まらず、法人に合う形式に変更し、より効果が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームのぞみの杜
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、基本方針の元、毎年度重点目標を管理者が提示。それを受け、各事業所目標を設定する。全職員は年1回の全体会議において、理念及び事業所目標を共有し、配布された手帳に各目標を記載し実践に繋げている。事業所会議にて、3か月に1回目目標の進捗状況の確認をしている。	法人理念、基本方針を基に職員等は目標を掲げ、現場の支援の中でどのようにして具体的に落とし込んでいくまで考えている。設立当初から地域還元という考え方を取り入れていた点は先見性を感じさせる。理念等は職員に毎年配布している手帳に記載があり、意識の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1年を通して小学校4年生(いのちの学習)との交流を行っており、今年で6年目になる。また、毎年町内のマイタウンビジネススクールのお受け入れをおこなっている。自治会への加入は継続しており、回覧板は入居者と一緒を持っていき挨拶を交わす等、普通の暮らしの中で地域の一員となっている。	自治会に加入しており、地域住民への福祉に関する啓発活動や地域の小学校の運動会に参加したり、中学校の職場体験受入を行ったり等、地域との相互関係作りに努めている。参加人数が800人を超える法人全体で行われる花火大会をはじめ、事業所や地域行事の際の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の見学、実践や研修等受け入れの際、専門的知識を生かし、入居者が不安にならないようプライバシーに配慮しながら、説明をおこなっている。また、広報誌を地域住民に配布し活動等紹介をおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの現状やサービス内容の報告はもちろん推進会議メンバーからの質問や意見をお聞きし双方向的な会議になっている。今年度は、年間活動計画として「介護について一緒に考えよう」と第6回までのテーマを決め実施している。	会議は奇数月に行われており、参加者等の要件は満たしている。議題内容は入居者状況及び行事報告を行い、参加者の意見等の抽出を行っている。口頭記述式による議事録は明確な記録となっている。会議の中で行われている福祉啓発の一環としての勉強会も良い取り組みである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町委託の施設よりグループホームへ入居にあたり、情報提供と情報収集をおこなうなど協力関係を築けている。また、町主催のヘルシーウォーキングに参加している。	担当者とは認定調査の際等、必要に応じ連絡や相談を行っている。昨今においては時間がかかったが災害時の避難場所についてどのように対応していくかという取組みへの返答があり、今後具体的な動きが見られそうである。事業所としては積極的に行政側からの助言等を求めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針、マニュアルがあり、身体拘束廃止委員会を中心に入居者の行動も抑制しない。年2回の研修を実施。玄関の鍵も夜間のみ施錠している。身体拘束はしないケアをおこなっている。	やむを得ない場合の書式は備えているが、一度も使った事がなく、身体拘束をしないケアを実践している。内部研修に関しては、法人全体と事業所単独2回の計3回が行われている。待ってもらった際の言葉掛けについては、その理由を説明するように心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会で不定期に事業所視察をおこない言葉や態度についても指導している。27年6月「元気の出るセミナー」実施、12月「ストレスケア」研修会を予定しており職員のストレスにも注意を払っている。		

グループホームのぞみの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネ更新研修にて後見制度や弁護士との連携について学んだ。12月の事業所会議時勉強会をおこなう。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は1時間から2時間ほど有し丁寧に説明することを心掛け、理解を得ている。 解約時にも十分な説明と期間を経てご家族にも納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度のご入居者がこれまでの生活を踏まえニーズ・要望を普段の生活の中から情報収集をおこない、こだわり・楽しみのある個別の企画を実施している。また、運営推進会議や家族会にて意見や要望をお聞きしている。契約時には苦情窓口、第三者委員会の設置などの説明は十分におこなっている。	家族会があり、面会及び事業所の各種行事毎への家族の参加率が高く、意見や要望を抽出しやすい環境作りが出来ている。また、毎月の便りを発行し、情報発信にも積極的に取り組んでいる。外部苦情窓口や第三者委員については説明を行っており、事業所玄関口に文書を掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催される拡大管理会議、事業所会議、委員会会議などで、意見や提案を聞く機会を設けている。また、年2回職員との面接をおこない、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	伝達ノートの活用や各種会議を経て情報交換を行っている。職位の上下関係無く話しやすい雰囲気であり、例えば介助バー、マッサージ器、ホットパック等は職員の提案から購入に結びついており、施設長自ら職員へ聞き取りを行っている。勤務シフトや休暇は可能な限り要望に応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の導入、内外研修制度の充実など能力を発揮できる環境を整えており、向上心をもっていきいき働けるよう努めている。また、今年度より親孝行休暇の請求もできるようになった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修をもとに、新人研修や施設内研修を実施している。外部研修に関しては指名研修・募集研修・申し出による研修・助成金を使える研修(ひとり5000円)の方法があり人材育成に繋がっている。また、事業所としては、15分・30分研修を職員が積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は全国の事業者団体や県・町の協議会に積極的に参加しており、発信、伝達研修にてサービスの質を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問面接時や入居時本人の思いや不安など把握しながら、共感的な気持ちをしっかり受け止めている。不安な事については声かけを統一対応し、解りやすい言葉で、ゆったりとした態度を徹底している。その方を知ることから初めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初めは特にご家族は心配されているので、ご家族の気持ちになって傾聴し困りごとや要望をお聞きしている。ご家族が面会に来られた時は様子を伝えている。必要があれば主治医とのカンファレンスもおこなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を傾聴しグループホームでの生活で、今何が必要か検討し、共通認識をもって支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意な事、できる事の見極めをおこない共に協力しあいながら生活をしている。昔の言い伝えやお見送りの大切さなど学んでいる。「ありがとう」の言葉が共に聞かれる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族との関係を把握し、特に入居された時は本人、ご家族の不安や相談事に耳を傾け一緒に本人を支えている。ご家族が来られた時ゆっくり過ごしていただける環境を心がけている。ご家族の面会や外出も多く、良い関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や友達の面会がある。遠く離れた息子さんとの手紙のやりとりなど関係継続を支援している。	家族との手紙交換により交流が途絶えないよう支援したり書道、編み物等、以前からの趣味を継続できるように支援している。生活していた地域にふると訪問として訪れたり、家族の協力を得ながら一時帰宅の支援を行う等、個別の意向等を抽出し計画を立て実現している事が伺える。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の個性を把握し、できる事の手伝いをしてもらいながらいっしょに生活をする仲間として名前を呼び合うなど支えあっている。また、トラブルにならないよう席の配慮など、職員は人的環境の大切さを理解し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され他事業所入居となられた方へ訪問し、本人、ご家族に声をかけている。必要に応じて情報提供も随時おこない暮らしの継続ができるよう連携を図っている。また、ご家族は退居後もグループホームに寄って下さる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から話す機会を作り、思いや希望は申し送り時に発信し情報の共有をしている。見える化ノートの活用を会議にて検討し、計画書に反映させている。小さな気づき大切にその方の思いを把握している。	アセスメント時に基本及び生活歴シートを作成し、嗜好や生活歴、服用薬等の情報を職員で共有している。担当制により責任を明確にしているが、支援は職員全体で行っている。現在は意思疎通が困難な利用者がいないため、家族や本人との会話や触れあいの中で、意向等の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴シート・基本シートの把握、ご家族から個性や以前大切にしていた事など尋ねている。また、以前利用していた事業所やケアマネより情報収集をおこない、これまでの生活の継続が出来るよう繋げている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別援助計画書を基本として生活シートを作成しお一人おひとりの過ごし方の支援をおこなっている。その日の、気づきは申し送りにて発信している。できる事、できない事の見極めをしながら自立支援に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは3ヶ月に1回、カンファレンスは更新時、状態変化時、退院後に基本おこなっている。担当制を活用しながら、日頃の気づきを大切にし個別の介護計画及び生活シートの見直しに努めている。	介護計画はケアマネジメントサイクルに沿って作成されており、目標設定、見直しやモニタリングも適正に行われている。伝達ノート、ヒヤリハット、見える化ノートを活用し、情報を会議にて共有、緊急対応事案について検証し、実践、結果、転倒等の事故を最小限に止める事が出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	見える化ノートを活用し情報は職員で共有している。個別援助計画書、生活シート、ケース記録に記載し誰が見ても次に繋がる記録に心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスの音楽療法に参加することで、認知症の軽減や楽しみに繋がり他事業所との交流もできている。また、個々のニーズに対応できる多彩な企画を立案、実施している。		

グループホームのぞみの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1年間を通しての小学4年生との交流、他事業所との交流、習字の先生による習字教室、ご近所との挨拶、また、外食や買い物など楽しんで生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は基本的には家族対応ではあるが、ご家族がいけない場合職員が対応している。また、医療との連携が必要時にご家族と一緒に受診している。	家族等の希望により、かかりつけ医を継続または変更し、受診は家族の協力を得ながら支援している。歯科医師による訪問歯科が毎週あり、口腔ケアが行われている。法人内には看護師がおり、適時協力を得られる他、緊急時には連携医療機関とすぐに連絡が取れるように体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回以上、看護師の健康管理と相談をしている。カンファレンスへの参加も必要に応じて出席してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療機関へ速やかに情報提供をおこない安心して治療ができるよう努めている。ご家族との情報交換もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から主治医、ケアマネ、スタッフ、看護師、ご家族とカンファレンスを開催しており、十分に説明をおこない本人・ご家族の意向を大切にしながら支援している。	法人内に特養事業所があるため、事業所では重度化や終末期の利用者は基本的に受け入れないという方針になっている。しかし、ここ1年の間においては、利用者や家族の思いと信頼関係の構築及び環境面における様々な要件が揃い、事業所にて看取りを行ったという事例が生じている。	基本的な方針を貫きつつも、事例が生じる事が全くないかというという訳ではなかった。事例が生じた際には書面による同意書を得て、重度化や終末期の利用者支援に対する職員の知識や技術の修練が継続的に行われる事が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ISOの緊急時対応手順に沿って実施している。定期的に手順書の再確認をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	事業所のみ火災訓練だけではなく、法人全体で年2回避難訓練をおこなっている。消火器の使用や放水の体験などおこなった。非常食の確保もしており、また、厨房では常に3～4日分の食料を保存している。地震・水害等のマニュアルも職員は理解している。	夜間想定を含め訓練は法人全体で年2回、単独で1回行われており、地域の分団の協力がある。災害関連マニュアルを備え、避難経路も明確である。スプリンクラー設置があり、新調理システムによる食料備蓄がある。ただし、地震等の訓練や持出品リストの作成は無く、コンセント周りの確認において不明確な部分があった。	地震等の災害に関しても訓練を取り入れ、今一度持出品リスト作成やいつでも持ち出せるような準備を行っておく事が望まれる。また、コンセント周りの確認についての記録は職員毎の認識度が曖昧であるため、整理し対応される事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重はいつも念頭に置いている。プライバシーに関するマニュアルを職員は理解している。言葉使いには会議でも発信し、常に人生の先輩という意識をもって言葉かけをしている。	マニュアルを整備し、職員は利用者への声掛けは誇りを損なわないよう配慮している。守秘義務に関しては職員から誓約書を得ている。居室扉はプライバシーを考慮し閉めることとしている。ホームページや通信等への写真掲載等に関しては家族から書面にて同意を得た上でやっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた雰囲気を作り入居者とゆっくりと向き合い、日常の会話や何気ない一言を大切にうけとめている。自己決定ができるよう傾聴、待つことを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活シートを基に支援をおこなっている。また、その日の状態、希望に沿った柔軟な対応もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな色、デザインの服をその日の気分で一緒に選んでいる。レストランに出かけるときはお化粧をして出かける。職員は整髪、爪切りはいつも心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けを職員と一緒にしたりテーブル拭きを積極的におこなってくれる。おやつ等お好きな物を買いに一緒に出掛けたりする。また、嗜好調査をおこない大好物、禁食等の把握をしている。	法人内の畑で採れた野菜等を食材として使用し、別棟の調理室で調理している。炊飯や盛り付け、配膳は事業所内で行っており、可能な場合は利用者に手伝ってもらっている。箸と湯飲みは使い慣れた物を使用しており、職員と一緒に話しながら食卓を囲み、楽しい食事の時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方には食事・水分チェック表を活用し、代替食の提供や時間、場面をかえ声かけをおこなっている。また、食事形態についてもご本人、ご家族と相談しながら無理がないように提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日4回、本人の残存能力に応じ声かけ、見守り、介助にて口腔ケア支援をおこなっている。職員は委員を中心に口腔内の清潔保持の大切さは理解している。また、必要があれば訪問歯科による義歯調整など食事をおいしく食べていただけるよう支援している。		

グループホームのぞみの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間の排泄パターンは生活シートにて職員間で把握できている。トイレでの排泄は基本であり、必要以上のパット等の使用はしない支援をしている。またリビングにて失禁された方がおられた場合は周りに気づかれぬさりげない配慮を心掛けている。	生活シートの記録を基に排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行い支援している。居室外にあるトイレでの排泄を基本としており、夜間のみポータブルトイレを利用する人もいる。利用者の出来る事や状態を明確に把握する事で本人の力を保持し、現在おむつを使用している利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に水分補給や毎日のレクリエーションにて軽体操、個々の応じた歩行訓練、入浴時の腹部マッサージを施行している。計画書にも自力排便、便秘予防を目標に入れできるだけ薬に頼らないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本として週2回以上としてはいるが、要望に応じて入浴していただいている。入浴時は特にコミュニケーションが図れる場として大切にしている。ゆったり入って頂くよう心掛けている。好みの湯温の把握もしている。また、小さな皮膚の炎症等も気づきを発信している。	日時は特に決まっておらず、利用者の希望や状態に合わせて、週2回以上を目安に支援を行っている。同性支援であり、1対1となる事が多い浴室では、安全性に配慮しながらコミュニケーションを取る事に重きを置いている。入浴剤やしょうぶ湯等、季節を感じ楽しめるような工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、年齢など考慮し落ち着ける場所で休息の場所を設け、リビングではBGMを流しひざ掛けやクッション用い心地よく過ごせるよう支援している。日光浴も安眠に繋がると考えている。また、主治医に情報伝達をおこない、できるだけ薬に頼らず、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬は副作用についても処方箋で確認できるようにしている。薬の変更があった場合は入居者の観察と情報共有をおこない記録に残し変化を見逃さないようにしている。状態変化によっては服用の有無について主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活シート、ご家族からの情報や普段の会話の中からその方の言葉を重く受け止め役割、楽しみごとの支援をおこなっている。場合により嗜好品の購入をご家族にお願いすることもある。食事の盛り付けや洗濯物たたみなどご自分からお手伝いをされる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩は、天気が良い日は出かけている。ご本人の希望に応じ個別の企画を立案し実施している。また、遠出するときは事前に行先の情報を入手し積極的に出かけている。	日常的に職員が同行し、例えば回覧板を届ける際に事業所周辺の散歩に出掛けている。また、職員は利用者の希望を聞き取り、実現出来るよう情報収集を行い、個別の計画を立案している。希望に沿って買い物、ドライブ、花見、外食、ふるさと訪問、温泉等への積極的な外出支援に努めている。	

グループホームのぞみの杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、2名の方が財布にお金を入れておられる。必要に応じて他の方も自分で支払いができるよう支援をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外出から帰ってこられた際、すぐご自宅に電話され、楽しかったことをお伝えすることがある。年賀状や手紙のやりとりの支援おこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームの周りには桜の木、中庭にはこぶしの木があり、玄関横にはいつも花を植えている。廊下にはテーブルや椅子を設置しておりゆっくり寛げる環境に努めている。大勢で楽しく語らえる場所、ひとりでゆっくり過ごせる場所の配慮をおこなっている。	リビングは広く、利用者はゆったりとした時間を過ごしており、穏やかな表情が伺える。玄関のプランターや中庭にはこぶしの木があり、季節を感じる事ができる。全体的に適度な明るさ、温度が保たれている。各居室前には違和感のない表札が掛けてあり、部屋を間違わないよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他者からの目線に配慮した居場所作りや気の合った方々と楽しく過ごせるよう席の配慮をおこなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具、写真、小物や大好きな歌手のポスターが貼ってある。ご家族にはできるだけ本人が使用していたものや大切にしているものなど協力していただいている。	各居室への持ち込みは自由であり、たんす、写真、趣味に関する道具等の持ち込みがある。個性を尊重し、動線を考えて家具等の配置を考える等、考慮している。居室内の換気や室温管理は職員が行っている。整理や清掃は毎日、担当職員が行い、清潔を保つよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアには「便所」とわかりやすく表示するなど、入居者の目の高さにあわせている。入居者の状態変化時は、安全で出来るだけ自立した生活が送れるよう環境整備をおこなっている。		